

2016茨城県工業高等学校新任教員研修会

2016年度の研修会の内容(12月26日)

昨年度に引き続き今年度も茨城県教育委員会主催の研修会が茨城高専で行われました。
年末ぎりぎりですが、高校の先生方が時間の取れる時期ということで、この時期になっています。
今年度は13名の新任の先生方を対象に、昨年同様、機械操作研修会ということで、汎用旋盤操作の研修会になりました。

茨城高専研究教育紹介

茨城高専校長 喜多 英治 先生

概要：喜多校長はこれまで筑波大で研究と教育をされてきましたので、それらの内容を話してくださいということでお願いしました。

多忙な毎日のところ、快く引き受けて下さり、大変感謝いたしております。

Presentationの前半は、「ものづくりにはinnovationが欠かせない」という内容で、人を育てるといふ仕事をされているの高校の先生方にも、大変に示唆に富む内容でした。

後半は、磁性材料がどういうところで使われているか、例えば、パソコンの磁気記録媒体はもちろんのこと、ハイブリッドカーに使われるモーター、変圧器のことなど、を写真で分かりやすく説明されました。

機械操作研修会(座学・実技)

ものづくりマイスター 石井 清一 先生

概要：昨年に引き続いて、今年も石井先生にお願いいたしました。

すでに紹介いたしましたが、石井先生は、企業で人を育てるといふ仕事を長い間されてきました。

午前中の座学の部では、企業におけるものづくりはそのための人を育てることから始まること、人を育てることがいかに大切かという内容を、石井先生のこれまでの経験の中から話されました。

技能五輪選手を育てることと、高校生にものづくりを教えるのとはレベルが違いますが、人を育てるといふ意味では共通なところがあると感じました。

どのようなレベルにあっても、そこから一歩前に進んで新しいことを学ばせること(学ぶこと)は大変なこと、というのが良く分かる内容でした。

午後の実技の部では、普通旋盤3級検定で実施される内容(の一部)を実施しました。人数が13名と多かったため、3グループに分かれての実習です。

前半は石井先生のデモンストレーションで、後半は茨城高専の技術職員も指導員として加わり、また機械系の参加者も今度は指導員になって、グループごとの実習になりました。

初めて旋盤に触る先生方も多かったことを考えると、内容はかなり高度でしたが、最初で最後になるかも知れない旋盤の体験を、できるだけ「標準的な内容」にして体験させたかったのだと思います。

石井先生の高度なデモンストレーションも、参加者のまぶたの奥に残像として焼き付いたのではないかと思います。

研修会風景

